

## J R 安芸川尻駅周辺整備の方向性について

### 1 これまでの経緯

呉市は、旧川尻町との合併時に策定した「呉市・川尻町合併建設計画」（以下「合併建設計画」といいます。）において、J R 安芸川尻駅を中心とした総合的な交通体系の整備に向け、駅施設の改修を始めとして、一般国道 1 8 5 号（呉～安浦間）広域連携道路の整備促進や J R 呉線の機能強化に努めるとともに、J R 安芸川尻駅の駅前広場や駐車場・駐輪場の整備、駅へのアクセス道路の整備など、地域内循環バスの運行拠点としての整備も推進することとしています（合併建設計画に計上していた事業費は約 6. 2 億円）。

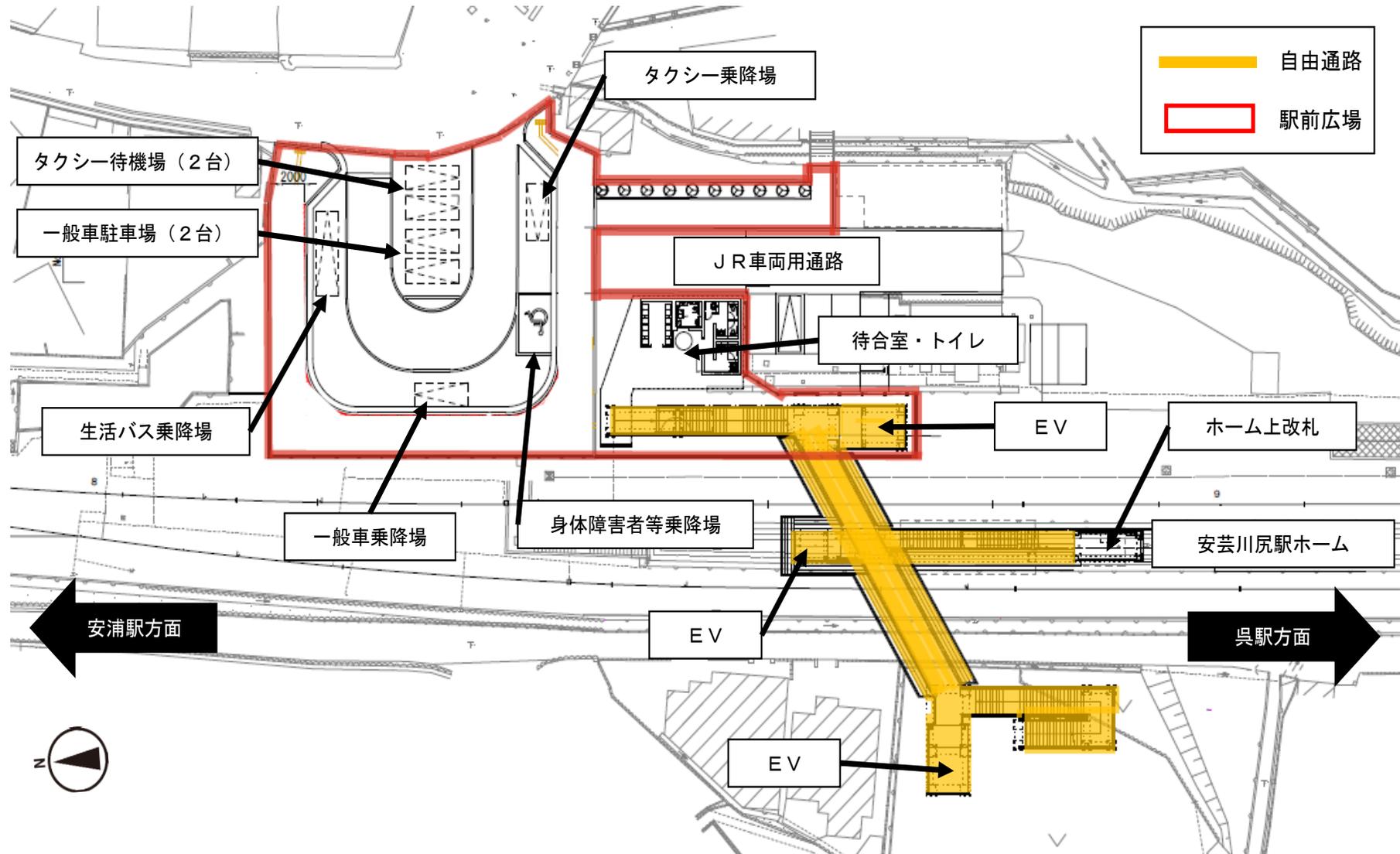
また、令和 2 年 9 月に策定した「呉市地域公共交通網形成計画」においては、J R 呉線のバリアフリーに配慮した施設整備により、利用促進や沿線の活性化を図っていくことを実施事業に位置付けており、このことは、令和 7 年 3 月に策定した「呉市地域公共交通計画」にも引き継いでいます。

こうしたことから、令和 3 年度に西日本旅客鉄道株式会社（以下「J R 西日本」といいます。）広島支社の協力を得て「安芸川尻駅バリアフリー化基本計画」（以下「基本計画」といいます。）を策定しました。基本計画に基づき、駅の所有者である J R 西日本と協議を行ったところ、J R 安芸川尻駅のホーム幅員が狭いことから、整備工事中に設置が必要となる仮設構内踏切の安全性確保や、階段やエレベーターを設置した後の空間の確保が課題となりました。

これを受けて、自由通路を市道として整備した場合についての予備設計業務を実施し、この成果を用いて J R 西日本と協議を行った結果、令和 5 年 1 2 月に、J R 西日本から施工の承認が得られたことから、令和 6 年度に基本設計業務に着手しました。

については、令和 7 年 8 月末に完了した基本設計業務の成果に基づき、J R 安芸川尻駅周辺整備の方向性等について整理しましたので報告します。

2 基本設計におけるJR安芸川尻駅周辺整備案  
(1) 基本設計概略図



(2) 総事業費（概算）

項目	事業費	事業費の内訳		
		国費	市債	一般財源
基本設計・実施設計等	約 2.0 億円	約 0.4 億円	約 0.4 億円	約 1.2 億円
用地取得費	約 0.5 億円	約 0.3 億円	約 0.2 億円	約 0.0 億円
自由通路・エレベーター整備	約 19.0 億円	約 7.3 億円	約 6.6 億円	約 5.1 億円
駅前広場整備	約 3.4 億円	約 1.7 億円	約 1.5 億円	約 0.2 億円
既存駅舎・こ線橋撤去，電気設備移設，電車線撤去・移設等	約 6.3 億円	約 0.2 億円	約 0.2 億円	約 5.9 億円
合計	約 31.2 億円	約 9.9 億円	約 8.9 億円	約 12.4 億円

※整備に当たっての財源については、国土交通省の都市構造再編集中支援事業交付金（補助率：1／2），公共事業等債（充当率：90パーセント，交付税措置率：22.2パーセント）の活用を想定しています。

(3) 事業費・一般財源が多額となった要因

- ・JR西日本としては、国の「バリアフリー基本方針」の要件を満たしている駅（1日平均利用者数2,000人以上）を優先して整備することとしており、この要件を満たしていないJR安芸川尻駅における、バリアフリー化事業の推進については、呉市が主体となって事業を進める必要があるため、JR西日本の負担はなく、事業費全額を呉市が負担することとなります。
- ・駅ホームに設置するエレベーターについては、本来であれば駅ホームにエレベーターを支える柱を立てる必要がありますが、駅ホームの幅員が狭く柱を立てることが不可能であることから、駅の東西を横断する自由通路を設置し、その躯体によってエレベーターの荷重を支える構造とせざるを得なかったこと、また、近年の資材価格高騰や労務単価の上昇等により、事業費が多額となりました。
- ・自由通路から駅ホームへの連絡通路やエレベーター、工事中の構内踏切等は、設置目的が鉄道施設を利用するためであることから、国庫補助金の対象外となり、事業費に占める一般財源の割合が高くなりました。

### 3 整備の方向性

J R安芸川尻駅のバリアフリー化について、J R西日本と協議を重ねながら基本設計を実施した結果、合併建設計画に計上していた事業費約6.2億円を大幅に超え、他の合併町との合併建設計画事業に対する投資額の均衡が保たれなくなります。

このため、当面、1期工事として、既存の駅前広場について、生活バスの乗降場を含む駅前ロータリーの全面改修、バリアフリートイレの整備、待合所の改修等を進めていくとともに、国道185号からJ R安芸川尻駅へ接続する市道の拡幅を図ることにより、利用者の利便性の向上に努めます。

なお、駅施設のバリアフリー化については、事業費が多額となる見込みであることから、引き続き、財源の確保策等について検討するとともに、鉄道事業の主体であるJ R西日本と、協議を継続します。

#### ○ 1期工事の事業費（概算）

項目	事業費	財源		
		国費	市債	一般財源
基本設計・実施設計等	約1.0億円	約0.1億円	約0.1億円	約0.8億円
用地取得費	約0.4億円	約0.2億円	約0.2億円	約0.0億円
駅前広場整備	約3.4億円	約1.7億円	約1.5億円	約0.2億円
既存駅舎、電気設備移設等	約2.1億円	約0.3億円	約0.3億円	約1.5億円
道路改良工事（用地取得費等込み）	約1.0億円	約0.5億円	約0.4億円	約0.1億円
合計	約7.9億円	約2.8億円	約2.5億円	約2.6億円

※整備に当たっての財源については、国土交通省の社会資本整備総合交付金（補助率：1／2）、公共事業等債（充当率：90パーセント、交付税措置率：22.2パーセント）の活用を想定しています。

#### 4 今後のスケジュール

令和 8年1月30日（金）	行政報告終了後，川尻地区地元関係者への説明会開催
令和 8年4月～令和 9年3月	J R西日本と協議・調整
令和 9年度～	第1期工事実施設計
令和10年度～	第1期工事